

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 佐伯豊南 高等学校
--------	---------	-----	----------------

学校教育目標 ・仲間や自分を大切にでき、心身ともに豊かな人間性の育成 ・自らの在り方や生き方を探求し、自己実現に向けて学び続ける姿勢の育成 ・地域社会や他者との協働を通し、地域に貢献できる人材の育成

重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
------	------	-------	----	---------------

カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・佐伯市の地域活性化の拠点として佐伯豊南高校を位置づけて活動を進めており、地域からの評価も高まっている。 ・シビック・プライド(地域への誇りと愛着)のビジョンが生徒にとってはやや難解であり、日本語で示す等の工夫の余地もある。 ・生徒と校長の対話の場面である「ほうなんTEN」(生徒から校長への10の取組宣言)の取組は大切に育ててほしい。 ・校長自らが入試説明会へ赴く等、新たな募集の形態を開発している。また、中学校側のニーズも把握している。	・佐伯市の地域活性化の拠点としての豊南高校を位置づける活動を今後も進めていく。 ・シビック・プライド(地域への誇りと愛着)のビジョンを生徒にとっても分かりやすいように、日本語で示す等の工夫を行う。 ・生徒と校長の対話の場面である「ほうなんTEN」(生徒から校長への10の取組宣言)の取組を継続して取り組んでいく。 ・校長自らが中学校の入試説明会へ出向き、中学校側のニーズを把握しながら生徒募集に取り組んでいく。
------------------	--------	--	--	--

カリキュラム・マネジメントの確立	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い。 ・保護者アンケートが実施され、学校の活動の評価・検証が進展している。 ・アンケートの実施目的と調査項目が明確になっていない面があり、実施前に熟考する必要がある。 ・管理職と教員、教員の横の連携が取れているかを再確認し、今後の方向性を検討することが望ましい。	・今後も学校の活動の評価・検証をするため保護者アンケートを実施し、改善につなげていく。 ・アンケートの実施目的と調査項目については明確にして取り組んでいく。 ・管理職と教員、教員の横の連携が取れているかを再確認しながら、今後の方向性を検討していく。
------------------	--------------	---	--	--

カリキュラム・マネジメントの確立	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・ケーブルTVやSNSを活用した情報発信の頻度が急激に増加しており、発信内容も満足できるものである。 ・校長が中学校へ出向き、学校の教育活動や内容を丁寧に説明する等、豊南の教育理念が地域に広がっている。 ・学修成果発表会等、成果発表の場を大規模イベント化するなど、モチベーションを高める工夫をしている。 ・ボランティア活動の定着と実績は評価できる。活動の評価を多角的な視点からの評価となるように検討してほしい。 また、活動の教育的効果をPRし、それをシビック・プライドの醸成につなげることも考えられる。	・ケーブルTVやSNSを活用した情報発信を今後も続けていく。 ・校長が先頭に立って、学校の教育活動や内容を中学校に対して丁寧に説明を行い、今後も豊南高校の教育理念を地域に広げていきたい。 ・学修成果発表会等、成果発表の場を大規模イベント化する等、工夫を続けていきたい。 ・ボランティア活動の評価を多角的な視点からの評価となるように検討する。また、活動の教育的効果を積極的にPRし、シビック・プライドの醸成につなげていく。
------------------	-----------	--	--	---

主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・ICTの活用については、精力的に展開しようとしており、教員の努力が伺える。 ・採用側の企業は、IT技術力の高度化を要求しているので、さらなるICTの活用をお願いしたい。 ・専門学科群の授業では、主体的・対話的・探究的な学習の様子が見られた。普通科目群では、資格と連動させている科目に限定されており、改善の検討の余地があるように感じる。 ・授業アンケートでは、一定の満足度が示されているが、求めている授業像に対し、測定項目が規律を重視するものが多いように感じた。アンケートは、昨年度との比較等により、過去からの改善状況が視覚化できると良い。 ・多くの生徒は学校生活に高い満足度を感じているが、「エンゲージメント(学習活動への没頭的関与)」には到達していない。 ・6月に比べ、ICT活用が進んでいるように見えた。ただし、授業改善が進展していないケースが散見された。「変えるべきものを変えていない授業」の改善が求められる。	・ICTを活用しながら、今後も授業改善に学校全体で取り組んでいく。 ・企業側からのIT技術力の高度化の要求に対して、更なるICTの活用を進めていく。 ・専門学科群の授業と同様に、普通科目群においても、主体的・対話的・探究的な学習に取り組んでいく。 ・授業アンケートは昨年度との比較等により、過去からの改善状況が視覚化できるよう工夫を行う。 ・「エンゲージメント(学習活動への没頭的関与)」に繋げることができるよう、今後取り組んでいきたい。 ・ICTの活用を推進し、「変えるべきものは変えていく」授業改善に取り組んでいく。
-----------------	--------	---	--	---

安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・不登校の原因を分析し、SC・SSW等の外部人材と連携した上で、対応に努めている。 ・生徒にとって安心して学べる場所となっている。 ・校務分掌の組織が特別支援教育と人権教育を兼ねているが、支援が必要な生徒が今後増加することも考えられることから、組織の見直しが望ましい。	・不登校の原因を分析し、SC・SSW等の外部人材と連携した取組を今後も続けていく。 ・生徒にとって安心して学べる環境づくりに今後も取り組んでいく。 ・校務分掌の特別支援教育と人権教育について、増加傾向にある支援が必要な生徒に対応するため、組織の見直しを検討する。
------------	-------------	---	---	---

安全・安心な教育環境	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・校内の整理整頓の状況について、ロッカーや階段、灯油置き場等のやや雑然とした箇所があった。 ・バリアフリー化が遅れており、早急な教育委員会の対応が望まれる。	・ロッカーや階段、灯油置き場等、校内の整理整頓に取り組んでいく。 ・バリアフリー化が遅れているので、教育委員会と相談しながら早急に対応していきたい。
------------	------	---	---	---

信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・部活動指導員との連携を図ることで、教員の働き方改革の促進につながっている。 ・採点評価の自動化等、ICTの業務活用により、超過勤務時間が改善されている。 ・「働きやすさ」と「働きがい」の再整理を行い、今後の働き方改革につなげることが望ましい。	・部活動指導員との連携を図ることで、今後もさらに教員の働き方改革の促進につなげていく。 ・採点評価の自動化等、ICTの業務活用により、今後も超過勤務時間の改善に取り組んでいく。 ・「働きやすさ」と「働きがい」の再整理を行い、今後の働き方改革につなげていきたい。
------------	-------	--	--	--

信頼される学校づくり	学校課題の解決に向けた取組等	○定員確保 ○学力の向上	・定員確保へ向けた対応として、現行の福祉科に保育の要素を加味した「保育福祉科(仮)」に改編することを提案したい。 ・校長のトップセールスの姿勢は大いに評価できる。今後は、中学生にも意図が明確に伝わるよう、PR内容をかみ砕いたものにする等の工夫をすると良い。 ・学校の学習指導を個別最適なものにするるとよい。習熟度別の課題を出す等、高学力層を伸ばす工夫が求められる。	・定員確保へ向けた対応として、現行の福祉科に保育の要素を加味した「保育福祉科(仮)」に改編することを検討する。 ・校長がトップセールスとなって、3年間の学びがどのような進路に結びつくのか等、中学生・保護者に明確に伝わるように、PR内容を分かりやすいものにするなどの工夫をしていく。 ・個々の学習レベルに合わせた習熟度別の課題を出す等、成績上位層も伸ばす工夫をしていく。
------------	----------------	-----------------	--	--

総合評価	<p>・校長の想いが学校全体に浸透しつつあり、学校が良い方向に進んでいる。平和で安全・安心な場所であるという、生徒の受け答えに共感できた。このような外部評価を参考とし、学校の改善を進めてほしい。授業の再チェックをする等、授業のアップデートを進めることは不可欠である。生徒は専門性の高い学習内容を学べる佐伯豊南高校にプライドを持っているので、教員にも「授業力プライド」を誇れるような授業を展開してほしい。それがシビック・プライドへの一歩である。</p> <p>・工業部の活躍は顕著である。福祉・農業・商業部門も積極的にコンテスト等に参加し、運動部とともにさらに学校・地域を盛り上げてほしい。入部率の低下については、中学校の部活動指導との連携をより深める等の工夫が必要である。</p> <p>・授業中の生徒は、落ち着いて集中している状況であった。生徒・保護者のアンケートからも高い満足度が確認できた。地域連携に関わる活動も活発であり、良い学校経営ができています。県内・管内の就職率も高く、地域に根ざした学校としての使命を十分果たしている。</p>
------	---

校長コメント(次年度の改善策)	<p>・校長の学校経営方針を学校全体に浸透させ、今後さらにより良い方向に進めていきたい。学校は平和で安全・安心な場所であればならず、生徒がそのように感じてもらえるよう日々取り組んでいきたい。授業改善についてはご指摘のとおり、授業の再チェックをする等、授業のアップデートを進めることは不可欠であり、生徒・教員が共に専門性の高い学習内容を学べる佐伯豊南高校にプライドを持って、授業を大切にしていけることを再度浸透させていく。このような外部評価を参考とし、学校の改善を進めていきたい。</p> <p>・工業部と同様に、福祉・農業・商業部門も積極的にコンテスト等に参加させ、運動部と共にさらに学校・地域を盛り上げていき、入部率についても増加するための方策を検討する。</p> <p>・生徒・保護者からの高い満足度を維持し、地域連携に関わる活動を続けていき、地域に根ざした学校としての使命を果たしていきたい。</p>
-----------------	---